

Title	日本の産業再編と企業戦略 - 1990年代以降における製紙産業・セメント産業の事例研究による整理と展望 -
Sub Title	
Author	植松, 泰右(Uematsu, Taisuke) 小林, 喜一郎
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2006
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2006年度経営学 第2119号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002006-2119">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002006-2119</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 論文要旨

所属ゼミ	小林 研究会	学籍番号	80530180	氏名	植松泰右
<p>(論文題名)</p> <p>日本の産業再編と企業戦略          -1990年代以降における製紙産業・セメント産業の事例研究による整理と展望-</p>					
<p>(内容の要旨)</p> <p>1990年代以降の日本の産業再編に関して、製紙産業、およびセメント産業の事例分析を行った。事例分析を通じて、バブル期以降の当該産業における企業戦略の目標を確認した上で、産業再編の効果を整理した。産業再編における企業の主要な目標は、市場の寡占化による価格変動の安定化にあるものと考えられる。再編過程を通じて、価格変動のうち下落の抑制は確認された。しかし、寡占化によって、価格の上昇が起こるとは限らない。また、再編後の企業シェアの分布に関して、プライスリーダーが存在する市場構造においては、プライスリーダーの存在しない市場と比較して、価格安定の効果は高いものと思われる。再編を通じて製紙産業、およびセメント産業では、収益性の改善が見られる。しかし、成長性は国内市場の成熟化に伴って低い水準となっている。化学工業、自動車、および鉄鋼のような海外市場の存在する産業と比較すると、内需依存度の高い産業の成長性は低い。したがって、今後の企業戦略においては、再編による国内市場の収益性改善と併せて、事業の海外展開による成長性の実現が重要である。</p>					